

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	脚本演出		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	39回 (78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	俳優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験33年 劇団出身。豊富な舞台経験と映像作品への出演、自身が女優として活動するだけでなく、脚本家、演出家としても幅広く活躍している。				
授業概要					
エチュードを通じて作品づくりの基礎を学び、ストーリーだけでなく、登場人物のキャラクターなど、観客の心を掴む数々の要素を学ぶ。					
到達目標					
実際に短編脚本に近い物を書いたり、作品を演出し、作り手の立場に立つ事で演者としてやるべき作業を学ぶ。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	テーマ「衝突と和解」衝突をテーマにエチュードを演じ、作品づくりの要素を学ぶ。また、観ている側は脚本家、演出家の目で作品を考察する。
【前期】 6～10回目	テーマ「キャラクター構成」「爆弾をぶちこむ」その他、衝突以外に作品に入れ込むべき要素をエチュードを通して学び、考察する。
【前期】 11～16回目	テーマから登場人物や登場人物のバックグラウンドを考え、脚本に近いものを書き、作品作りをする。
【前期】 17～20回目	舞台発表作品から、これまで学んできた要素を考察する。
【後期】 21～25回目	舞台発表作品を見て課題を見出す。映像、舞台の脚本の形式を学ぶ。短編作品を演出する作品選びをする。
【後期】 26～30回目	短編作品を演出する。キャスティング、演出効果なども講師のアドバイスの元、自身でやる。
【後期】 31～35回目	上記に加え、卒業公演作品にこれまで学んだ事を土台に取り組み。
【後期】 36～39回目	卒業公演作品に取り組み。
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	作品づくりを学ぶ事で、脚本家・演出家の意図を掴みやすくなります。現場でディレクションに即座に答えられる役者は次の仕事へ繋がる可能性が高いです。
使用教科書	必要に応じて適宜プリント等資料配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	トークスキル		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	39回 (78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	俳優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験35年 元アナウンサー。リポーターやキャスターとして活躍。ラジオでは有名女優のアシスタントを務めたのをはじめ多数出演し、パーソナリティーとしてレギュラーで活躍した。				
授業概要					
タレントとして人前が出る様々なシーンで臆せず喋れるように、アナウンスの基礎力・フリートーク力・アドリブ力・人の話を聞く力をつける。オーディションに向けた対策をする。					
到達目標					
アナウンスの基礎力向上。オーディションに向けた(書類、写真、自己PR)準備をする。柔軟にフリートークができるようになる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	発声・滑舌練習の振り返り、定着
【前期】 6～10回目	オーディションに向けた準備(書類・写真・自己PR)
【前期】 11～15回目	様々なフリートーク(自己PR、時代の話、流行について)
【前期】 16～21回目	TVの情報番組を想定したトーク
【後期】 22～25回目	前期の振り返り、自己PRの強化
【後期】 26～29回目	オーディション対策(自己PR・ファッション・書類)
【後期】 30～32回目	バラエティ番組を想定してのトーク、雑誌・新聞を使っのトーク
【後期】 33～36回目	アナウンス力の向上、インタビュー、質疑応答の練習
【後期】 37～39回目	好きなことの魅力を伝えるトーク(話の構成・プレゼン)、全体の振り返り
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	オーディションに向けた準備、アナウンスの基礎力向上、フリートークのレッスンをやります。相手に伝わる話し方を目指しましょう!
使用教科書	トーク材料のグッズ、雑誌、新聞、アナウンス原稿 その都度講師が用意

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	演技メソッド・実践論		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	40回 (80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	タレント・アクター・モデルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験18年 大学在学中に劇団に在籍。舞台・映像作品への出演を重ねながら殺陣稽古を主催し、パフォーマンス集団の代表を務める。数々の映画やテレビ作品に出演している。				
授業概要					
プロの俳優に必要な表現方法、対応力を学ぶ。					
到達目標					
台本に書かれた内容を即座に読み取り、求められた役柄に合わせた演技ができるようになる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	物語とキャラクター創出・理解の為のプロット、台本作成
【前期】 6～10回目	エチュードバラエティとその特性、強化ポイント
【前期】 11～15回目	学内オーディションに向けてプロフィール用紙作成、自己PRの考察 想定されるオーディション実践 (CM・TVドラマ・映画)
【前期】 16～21回目	ゲスト講師による講義と振り返り 学内オーディション本番→反省点・改善点の研究
【後期】 22～26回目	演技メソッド (スタニスラフスキーシステム・パワーマイム・つか芝居・舞台視野)
【後期】 27～31回目	想定されるオーディション実践 (TVドラマ・映画・ワークショップオーディション)
【後期】 32～36回目	学内オーディションに向けてプロフィール用紙作成、自己PRの考察 メソッドを使用している演技の鑑賞・研究
【後期】 37～40回目	学内オーディション本番→反省点・改善点の研究 ゲスト講師による講義と振り返り・1分間フリートーク
評価方法	学期末の試験、及び平常点 (授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	感情表現は、相手がどのような感情にいるかを組み取る事が重要で、それは台本ありきの演技にも通じる。その点を意識しながら、実際の演技に落とし込むこと。
使用教科書	必要に応じて適宜プリント等資料配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	映像演技（応用）		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	40回（80単位時間）	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	俳優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験18年 大学在学中に劇団に在籍。舞台・映像作品への出演を重ねながら殺陣稽古を主催し、パフォーマンス集団の代表を務める。数々の映画やテレビ作品に出演している。				
授業概要					
映像台本・CMコンテなどを使用し、実践的に撮影手順・カメラワーク・映像作品に適した演技メソッドを学ぶ。					
到達目標					
撮影現場において、様々な演出・クライアント要望に対応できる力をつける。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	ガイダンス、座学（ドラマ台本を用いての用語解説）
【前期】 6～10回目	台本を用いてのシーン稽古・撮影（編集してのレビューも含む）
【前期】 11～15回目	試験台本解説、レビュー
【前期】 16～21回目	コンテを用いてのCM講座・実践
【後期】 22～26回目	レギュラー・サブ・アンサンブル演技実践
【後期】 27～31回目	映像演技フォームレッスン
【後期】 32～36回目	発表会稽古
【後期】 37～40回目	卒業制作の稽古
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	撮影期間は髪型・衣装・メイクがつながるよう注意する。
使用教科書	既成、作成台本を適宜配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	舞台演技（応用）		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	39回（78単位時間）	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	俳優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験33年 劇団出身。豊富な舞台経験と映像作品への出演、自身が女優として活動するだけでなく、脚本家、演出家としても幅広く活躍している。				
授業概要					
エチュードでの表現を、観客に見せられる演技として磨く。					
到達目標					
実際の舞台公演を通じて、観客の心を掴む表現を身につける。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	エチュードで自己を開放し、日常では他人に見せる事の無い感情表現を学ぶ。
【前期】 6～10回目	様々なテーマのシチュエーションから感情の引き出しを増やす。
【前期】 11～16回目	感情表現の他、観客の視線を考慮した舞台上での動きを学ぶ。
【前期】 17～20回目	前期公演の稽古でこれまで学んだキャラクターの表現をアウトプットする。
【後期】 21～25回目	前期公演から自分の課題を見つける。
【後期】 26～30回目	脚本・演出授業の課題・演出の中で演者として演出のディレクションに答える。
【後期】 31～35回目	上記に加え、卒業公演の稽古を通してこれまで学んだ全てを役作りに反映する。
【後期】 36～39回目	卒業公演の稽古
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	様々なシチュエーションでのエチュードは、予定調和のない本物の感情を疑似体験出来ます。アンテナを張りめぐらせ、たくさんの感情を手にし、表現者としての引き出しを増やしましょう。
使用教科書	必要に応じて適宜プリント等資料配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	フォトシューティング		授業形態/必・選	実習	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	俳優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経歴12年 国内外で活動するファッションモデルとして東京コレクションなどのブランドファッションショーやスチール広告などの他、ミュージックビデオや企業CM・ラジオなど多岐に渡って出演。 ミスターコンテストの日本代表として世界大会に出場した経験も持っている。				
授業概要					
様々なシチュエーションの撮影を行い、仕事としての撮影に臨めるよう幅広い対応力を養う。 その過程で営業ツールとしてのモデルBOOK(ポートフォリオ)を完成させ、自身を売り出していく準備をしていく。					
到達目標					
撮影場所や内容、光源によってどのようなポージングをするべきか等、様々な事を総合的に考え、カメラマンやクライアントの意図を汲み取って適切な表現ができた上で自分の良さを出せるようになる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	<ul style="list-style-type: none"> カメラや写真の理解 光源の種類による見え方の違いの理解
【前期】 6～10回目	<ul style="list-style-type: none"> スタジオ撮影での見え方の理解、注意点 自分の頭の中で想像した自分と実際の見え方(写真)との食い違いの研究
【前期】 11～15回目	<ul style="list-style-type: none"> ロケーション撮影(外)での見え方の理解、注意点 天気や季節、服装によるポージングのバリエーション シチュエーション別での撮影・表情・体の使い方
【前期】 16～21回目	<ul style="list-style-type: none"> ロケ撮影実習 自分の撮りたいイメージをカメラマンへ共有、提案
【後期】 22～26回目	<ul style="list-style-type: none"> Bookやコンポジットを意識した撮影 宣材撮影の重要性と意識向上、案件別によるコンポジット写真の組み替え等
【後期】 27～31回目	<ul style="list-style-type: none"> ファッション、雑誌、ビューティー、商品紹介、広告など、ジャンル別での撮影で意識すること、注意点
【後期】 32～36回目	<ul style="list-style-type: none"> スタジオ撮影実習 自分の撮りたいイメージをカメラマンへ共有、提案 Book作成
【後期】 37～40回目	<ul style="list-style-type: none"> ビューティー撮影実習 商品撮影実習 グループ撮影実習
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	自分が進みたい道を明確に見据え、一つ一つ着実に実力をつけていきましょう。 また、積極的に自分の売り出しポイントを出していきましょう。
使用教科書	必要に応じて適宜プリント等資料配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	日本舞踊		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	40回 (80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	俳優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験18年 12歳から市民子供ミュージカルの舞台に立ち、大学でミュージカルコースを専攻。卒業後は大劇場や小劇場の舞台から映像、ジャンルも現代劇から時代劇まで幅広く活躍。				
授業概要					
日本人である以上、お芝居をする際に時代劇というものは欠かさない要素です。まずは浴衣をきちんと着こなせるようになることを目標に、その上で着物を着た際の美しい所作、着物の捌き方を学びます。また、それと同時に簡単な踊りもやっていきます。					
到達目標					
日本舞踊は「心・性根・表現・形・動き・間・位置・流れ」と8つの目的がありますが、最終的には演者の「心」を演じるものです。なので、振りを覚えて踊るだけでなく、役者として、その踊りの「心」を表現できるようになること、時代劇の現場に行っても最低限の所作は出来るようになることを目標に1年間取り組みます。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	浴衣の着方を覚えます。 正座に慣れること。立ち・座り・お辞儀に焦点をおく。
【前期】 6～10回目	心＝穏やかにする 眼＝まっすぐ前をみる 背＝まっすぐ、肩甲骨を寄せる 足＝そろえる 手＝指をそろえて親指はしまう。ひじは張らない。
【前期】 11～16回目	曲に合わせて動けるよう練習。
【前期】 17～19回目	着物を着た際の歩き方・手の動き舞踊で基本となる、首の動き・あやにする・おすべりなどの動作扇子の使い方を覚え、美しく正しい形を学ぶ。
【後期】 20～24回目	浴衣の着方再確認。 前期より難しい曲に挑戦。
【後期】 25～29回目	踊りの幅を広げる為に男振りなども加えていく。 基礎に関しても再確認。
【後期】 30～34回目	新しい扇子の技なども取り入れ、動きの幅を広げる。
【後期】 35～40回目	1年間で学んできたことを踏まえた上での、より高度な踊りに挑戦。
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	全ての動作には、一つ一つ意味があるので、それを意識しながら取り組むこと。
使用教科書	必要に応じて適宜プリント等資料配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ヴォイトレ&表現歌唱(応用)		授業形態/必・選	実習	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	俳優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験17年 数々のミュージカルの舞台に立ち、ボーカルユニットではツアーやレコーディングなど精力的に活動。現在はボイストレーナーとして、「疲れない声の使い方」を重点的に指導。				
授業概要					
歌を歌う為に必要なトレーニングを行う。					
到達目標					
歌唱に必要な基礎技術(呼吸、発声、姿勢、リズム、など)を習得する。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	発声について 基本の発声、ハミング、裏声
【前期】 6～10回目	音階トレーニング
【前期】 11～15回目	ブレスについて スタッカートについて
【前期】 16～19回目	ステージにおけるパフォーマンスについて マイクの持ち方
【後期】 20～24回目	個人の希望確認 個人歌唱指導
【後期】 25～29回目	課題曲、自由曲にて個人歌唱指導
【後期】 30～39回目	公演に向けての個人歌唱指導
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	歌を上手に歌う為には、歌の練習よりも基礎練習が大切です。
使用教科書	習得する内容に合わせて、随時プリントを配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ダンス（応用）		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	38回（76単位時間）	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	俳優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経歴12年 芸能事務所でのダンス指導やライブの振り付け、TV出演の際の振り付け指導やディレクションなどを担当。				
授業概要					
リズムに合わせて体を動かす。その為に必要な筋力トレーニングやストレッチも行う。					
到達目標					
色々なジャンルでの基本的な振付を習得する。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	ストレッチ、筋力トレーニング、リズムトレーニング
【前期】 6～10回目	アイソレーション
【前期】 11～16回目	アイソレーションを取り入れて、振付の練習
【前期】 17～20回目	曲に合わせての振付練習
【後期】 21～25回目	発表会振り付け
【後期】 26～30回目	衣装合わせ・振り固め
【後期】 31～35回目	衣装付きリハーサル・振り固め 発表会
【後期】 36～38回目	後期試験曲振り付け
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	ダンスは日々のトレーニングの積み重ねなので、怠らずに頑張ってください。
使用教科書	習得する内容に合わせて、随時プリントを配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	殺陣&アクション (応用)		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	38回 (76単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	俳優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験20年 2003年よりTVドラマ出演し、以降多くのドラマや舞台、映画等で俳優として活躍。国内外で活動する殺陣パフォーマンスチームを主催し、自身も殺陣師としても活動中。				
授業概要					
基本の所作や立ち振る舞いなど、安全を第一に考えて行います。 着付けや型など、殺陣の基本を学びます。					
到達目標					
舞台やドラマで必要になる立ち廻りの基本技術の習得を目標とします。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	【殺陣】帯、袴の着付け/刀の振り方、構え方 【アクション】パンチ、キックの打ち方
【前期】 6～10回目	【殺陣】基本の型19手/対面素振り数種 【アクション】パンチ、キックの捌き方/マット運動
【前期】 11～16回目	【殺陣/アクション】斬られ方、やられ方、リアクション
【前期】 17～20回目	【殺陣/アクション】1対1の立ち回り
【後期】 21～25回目	【殺陣/アクション】特殊武器を用いた立ち回り(長もの、ナイフ)
【後期】 26～30回目	【殺陣/アクション】台本を使って役に適した身体表現をする
【後期】 31～35回目	【殺陣/アクション】舞台表現を意識した立ち回り
【後期】 36～38回目	【殺陣/アクション】映像表現を意識した立ち回り
評価方法	学期末の試験、及び平常点 (授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	一歩間違えれば怪我にもつながりますので、遊び半分な気持ちではなく真剣に向き合ってください。
使用教科書	習得する内容に合わせて、随時プリントを配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	タレント実地演習Ⅱ		授業形態 / 必・選	演習	必修
			年次	2年次	
授業時間	180分 (1単位時間45分)	年間授業数	8回 (32単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	芸能タレント科 俳優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。				
授業概要					
それぞれのイベント等における対応、現場における進行の様子・作業について研修を行う。					
到達目標					
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。 企画、立案、進行等、インプット・アウトプット能力の向上。					

授業計画・内容	
1回目	舞台観覧
2回目	コースイベント
3回目～7回目	ESP学園主催イベント
8回目	年度末公演
評価方法	平常点 (授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	この演習を通じて、現場における流れや、他者とのコミュニケーションの仕方等確りと学んでください。
使用教科書	当日の役割分担表、業務要項等を配布